

西暦 2020年02月10日作成

医学系研究に関する情報公開について

下記の研究は、福岡大学医の倫理委員会から承認され、病院長の許可を得て実施するものです。インフォームド・コンセントを受けない場合において、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」第5章 第12.1に基づき、以下の通り情報公開いたします。

研究課題名	大動脈瘤に対するステント留置術と脳循環の変化
研究期間	病院長許可日 ～ 西暦 2020年12月31日
研究責任者	脳神経内科 准教授 緒方 利安
試料・情報の収集期間	<input type="checkbox"/> ：新たな情報を取得する場合 病院長の許可日 ～ 西暦 年 月 日 <input checked="" type="checkbox"/> ：既存試料・情報を利用する場合 <input checked="" type="checkbox"/> 後向き期間：西暦 2016年01月01日 ～ 西暦 2018年12月31日 <input type="checkbox"/> 前向き期間：病院長の許可日 ～ 西暦 年 月 日
研究対象者	弓部大動脈瘤やStanford A型の大動脈解離の診断で、2016年から2018年までに福岡大学病院心臓血管外科で治療された症例のうち、その治療前後に頸部血管エコー検査を行えた症例が対象である。
研究の意義と目的	現在、弓部大動脈瘤や大動脈弓を含む大動脈解離に対しては、ステント治療の適応が拡大されてきています。本研究の目的は、弓部大動脈瘤やStanford A型大動脈解離の治療後に生じた、鎖骨下動脈盗血症候群や虚血性脳血管障害の発症と頸部血管エコー検査所見に関連があるかについて検討することです。
研究の方法	本研究は後ろ向き観察研究です。弓部大動脈瘤やStanford A型の大動脈解離で当院心臓血管外科に入院された患者さんのうち、頸部血管エコーを行った方が対象です。手術前の頸部血管エコー所見と鎖骨下動脈盗血症候群や虚血性脳血管障害の発症を比較します。
研究に用いる試料・情報	診療録、検査データ、画像データ
外部への試料・情報の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
外部からの試料・情報を利用	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
情報管理責任者	脳神経内科 准教授 緒方 利安
研究のための試料・情報を利用する者	本学：医の倫理委員会承認され病院長から許可された研究者 他施設：各施設の倫理委員会承認され研究機関の長から許可された研究者
個人情報の保護	収集した試料・情報は、匿名化（どのデータが誰のものか分からなくすること）した上で本研究に利用します。国が定めた倫理指針に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
研究協力の任意性と撤回の自由	この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究に参加を希望されない方（患者さん自身がすでに亡くなられている場合にはそのご家族）は下記の問い合わせ先へご連絡ください。患者さんの試料・情報を本研究に利用しません。ただし、ご連絡を頂いた時点で、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、試料・情報を削除できないことがあります。不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記の問い合わせ先ま

	<p>でご連絡ください。この研究への試料・情報の利用を断っても、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。また、患者さんのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。希望される方は下記の問い合わせ先までお申し出ください。</p>
<p>試料・情報の利用または他の研究機関への提供の停止について</p>	<p>患者さんまたはその代理人のご希望により、患者さんが識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止することができます。試料・情報の利用または提供の停止を希望される方は下記の問い合わせ先までお申し出ください。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>所属：福岡大学病院 担当者名：緒方利安 電話番号：092-801-1011 対応可能時間：平日9：00-17：00、土・日曜・祝日は除く</p>